

# きっといつの日か ロケ地マップ

## (有)大堀研磨工業所 蘇原寺島町

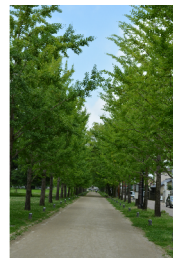


### 大堀家の自宅兼工場

大堀家の自宅、俊雄の職場として、実際のご自宅と工場をお借りして撮影した。特にご自宅では、朝早くから深夜までの撮影だったが、快く協力していただき、監督も恐縮していた。

各務原市の主産業である航空機や、工作機械用部品関連の精密部品の加工を手がけている。

## 学びの森プロムナード (冬ソナストリート) 那加雲雀町



広々とした緑地に林立する大木。池や川のせせらぎ等変化のある風景に出会える公園。いちよう並木の美しい『冬ソナストリート』も併設。冬季は映画のようにイルミネーションが施され、多くの人が訪れる。

悠希と捺実がイルミネーションの並木道を歩くシーン

深夜までかかった撮影で、体の芯まで冷えてしまった出演者とスタッフ。

撮影の合間に食べた、食事班手作りの温かいおでんと、出演俳優の多田木亮佑さんからの差し入れにより、再び撮影現場に活気が戻った。

## 東海中央病院 蘇原東島町



各務原市と周辺地域の二次医療機関として位置付けられた病院。治療とケアが一体となった地域医療に貢献している。  
各務原市蘇原東島町 4丁目 6-2  
(058)382-3101

悠希の父 俊雄が入院した病院

病棟を借りての夜の撮影のため、極力静かに粛々と撮影が進められた。

ここでの悠希の屋外の撮影でクランク・アップ。

雪がちらつく中、悠希役の塩野さんはスタッフが近寄ることができないくらい演技に集中し、撮影現場は空気がピンと張りつめていた。

## かかみがはら 航空宇宙科学博物館 下切町



悠希、俊雄の回想シーン

悠希の幼い頃の回想シーンや、俊雄の若き日の回想シーンを撮影した。

俊雄とともに、同僚役で浅野健司各務原市長が出演している。

ぜひ見逃さないでほしい。

戦前・戦後の国産機の資料を収集展示を通して「日本の航空宇宙技術者が、何にチャレンジをしようを残してきたか」を後世に伝えている。  
隣接する航空自衛隊岐阜基地は、宮崎駿監督「風立ちぬ」のラストに出てきた試験飛行の飛行場にあたる。(映画で飛行機から見える桜並木の風景は、新境川の百十郎桜を思わせる)  
各務原市下切町 5丁目 番地  
(058) 386-8500  
営業時間 9:30~ 16:30 季節によって多少変更  
休館日 火曜日 年末年始

## 各務原市役所前駅 那加桜町



帰国した悠希を捺実が出迎えた駅

捺実役の吉田朱里さんが現場入り最初となったシーン。

この日は雨が降っており、急きょ監督のイメージに合った赤い傘を、エキストラ参加者からお借りした。

悠希のアルバイト先

スーパーの出入り口付近や駐車場、搬入口で撮影が行われた。営業時間内であったため、一般のお客様にご迷惑をお掛けしないよう心掛けたが、駐車場出入り口で大渋滞という結果になってしまった。



「毎日楽しくお買い物ができ、身近で心地いい店」という意味合いを持つ店名の通り、一人暮らしの少量小分け商品からファミリー向けの商品まで、幅広い品ぞろえで地元のお客様を迎えている。

## ピアゴ各務原店 那加桜町

## かかみがはら 航空宇宙科学博物館 岐阜県 グリーンスタジアム

東京の原宿駅を模した名鉄各務原線の主要駅。  
駅名の通り市役所等官公庁の最寄りの駅として、一日を通して乗降客が多い。

## 各務原大橋 上中屋町



全長594m、各務原市の川島地区と市内中心部を結んでいる。木曾川の自然と融合した美しい橋。

大堀家へ向かう道

監督から「各務原で一番夕景がきれいな場所は？」と所望されて、市民スタッフから推薦された場所。冬の曇天の中、奇跡的に撮影された夕景は必見。

## 川崎重工業(株) 川崎町



航空宇宙軍事関連製品の製造、戦闘機などの開発・製造をしていた「川崎航空機」が前身。  
その流れを汲んで、現在も同様の開発・製造、さらには宇宙産業にかかわる開発・製造を行っている。

悠希が就職を目指す航空産業の会社

この映画のクランク・インの地。

晴れた空に朝日が昇る駐機場での撮影は、この映画の成功を約束するようなシーンになっている。(作品中は夕焼けですが)

高機密情報があるため、今までカメラが入ったことはなく、初めて工場内で撮影が行われた。

川崎重工業の全面協力がなければ、この映画は完成しなかったであろう。

## カフェ カーロ

## カフェ カーロ 前渡東町

本格的なイタリアンと、こだわりのカフェメニューが楽しめる。夜はワインをはじめアルコール類も充実したバーになる。

各務原市前渡東町 5丁目 6-5  
(058) 386-9614  
営業時間 11:30~ 23:00  
定休日 水曜



悠希が友達と食事しているお店

作品中だけでなく、クランク・アップ後の打ち上げ会場としても利用させていただき、スタッフ・キャスト共に、楽しいひと時を過ごした。

各務原市「ぼくらの映画」プロジェクト。

沖縄国際映画祭出演に向けて昨年11月上旬から各務原市の皆さんと動き出しました。

ロケーションハンティング=ロケハンからの皆さんに各務原の素晴らしい場所に沢山連れて行って頂きました。

「ここも良い!」「ここも素敵!」「ここは素晴らしい!!!」と撮影したい場所がどんどん増えていき、構想が泉の如く湧き出て、構成が難しかったのを思い出します。

同映画祭で某監督さんが、「市の良い風景を余すところなく撮影出来ました!」とおっしゃいました。

実は、残念ながら本作品「きっといつの日か」で各務原の良い所全てを撮影しきれませんでした。とてもじゃありませんが、30分という時間で各務原の良い所を説明しきれません!

しかしそれでも「きっといつの日か」では沢山のロケーションをすることができました。

本来、絶対!撮影できないと言われていた(一般常識的に当たり前です)「川崎重工業」を始め、作業中の工場での撮影にご協力頂いた「大堀研磨工業所」。ご自宅では深夜遅くまで撮影してしまいました。

現場では、医療指導までご協力頂いた「東海中央病院」。クランク・アップ時には、深夜まで正面駐車場での撮影しました。ラストカットを撮り終えると雪が降り出す極寒の撮影でした。

また営業時間を裂き、クランク・アップの日に撮影以外でもご協力頂いた「カフェ カーロ」。

他にも、テーマである飛行機の事で色々なお話を聞かせて頂いたり、回想シーン、ラストシーンで重要で欠かす事のできない「かかみがはら航空宇宙科学博物館」、「ピアゴ」や「川島タクシー」など、どの場所もストーリーに不自然ではなく、必然的に「きっといつの日か」に描かれています。

本当にこの度の撮影でご協力頂いた皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました!

そして、各務原で更に大きな作品を撮るのが、私の新たな夢になりました。・・・きっといつの日か。

